

地域防災の中核である消防団員と共に考える消防団の魅力UP

栃木県危機管理防災局消防防災課

3班 コミュニティデザイン学科 栗田悠来 安倍史恩 藤澤大和
建築都市デザイン学科 横塚寛登 小野瀬拓馬 高木京介
社会基盤デザイン学科 川田悠斗 早乙女愛佳 坂本菜々
グループ指導教員 石井大朗先生



1：背景

- 現状**
 - 入団者数は10年前と比較して約半数に減少・団員数も減少傾向
 - 第5次男女共同参画基本計画において消防団員に占める女性の割合をR8年度末までに5%にする必要があるが現在栃木県は2%
- 女性団員の必要性**
 - R6年度全国女性消防団員活性化とちぎ大会が開催される
 - 大規模災害時には避難所運営など女性の目線が抜けがち
- 女性団員PR**
 - 女性団員活躍の機運が高まっている一方で、若者や女性が災害時支援や消防に関して理解する機会が不足している
 - 女性団員のPR強化→女性団員確保

2：目的

女性消防団について正しい認知を広め、消防団の魅力を知ってもらう。そのために、まずは私たちが消防団について学び、得た知識や技術を多くの人に発信する。

3：調査の流れ

STEP1: 消防・防災イベント参加 計5回
(5/18、6/15、10/10、10/19、11/15)

STEP2: 市民への意識調査: アンケート調査の実施(10/19)

STEP3: 理解促進・広報を目的としたインタビュー記事・パンフレット作成

計5回にわたって参加した消防・防災に関するイベントで、まずは私たちが消防団の役割や意義などの知識を深め、現状や課題を発見することとなった。STEP1で紹介した、これまで参加したイベントについては以下に記述する。



写真1
5/18「フェスタマイ宇都宮」
@宇都宮城址公園
女性消防団員へのインタビュー、心肺蘇生法体験、インタビュー記事作成



写真2
6/5「県民の日記念イベント」@栃木県庁
女性消防団員へのインタビュー、煙体験、消火器体験、VR防災体験車による災害疑似体験、インタビュー記事作成

「フェスタマイ宇都宮」「県民の日記念イベント」に参加しての私たち学生の感想
心肺蘇生法や消火器の使い方を知っていると、いざというときにとても心強いです！心肺蘇生法は運転免許を取得した際に体験したきりだったので、忘れてしまっていることも多かった。人命を救うための行動を私たちが率先してとることの重要性を感じました。



写真3
10/10「防災マネジメントⅠ」
@宇都宮大学陽東キャンパス
消防団の役割・意義紹介、放水体験



写真4
11/15「1DAY消防団体験」@栃木県消防学校
規律訓練、AED体験、土嚢作成・運搬、放水体験、ホース延長

「防災マネジメントⅠ」「1DAY消防団体験」に参加しての私たち学生の感想
消防団の役割や仕事について十分に理解することができました。放水体験では、ホースの重みや水圧を身をもって感じたため、これらを扱うには日ごろからの訓練が重要になると考えました！

4：仮説

これまでのイベントの参加を踏まえて、女性消防団員の存在や活動内容に関して認知度が低く、「消防士」と「消防団」の違いを十分に理解していない人も多いのではないかと考えた。特に、若年層において女性消防団員の存在が十分に浸透していないと仮説を立て分析をした。

5：結果・分析

(1) 私たちの仮説を立証するために
10/19に「ミナテラスとちぎ」にて開催された「防災救急フェア」に参加した。イベントでは、VR防災体験車による疑似災害体験や消防車・ドクターカーの展示、非常食・防災食のPR等が行われた。子ども連れを中心に多くの来場者でにぎわった会場内で、女性消防団に関するアンケート調査を実施し、来場者計102名からの回答を得た。

質問：女性団員がどのような活動をしているか知っていますか？

回答：計102件
10/19実施

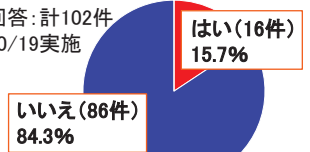


図1 来場者アンケート結果

(2) アンケート調査・消防団員へのインタビューからの分析

アンケート調査(図1参照)から、女性消防団員の認知度が低いことが定量的にも確認された。加えて、消防団関係者への聞き取りや活動を通じて、消防団全体として若年層の入団者が減少している現状も明らかとなり、30代から40代の団員数増加と、10代から20代の若年層の団員数減少が目立つ。

＜アンケート内容について＞

質問「女性団員がどのような活動をしているか知っていますか？」
上図参照の通り、「いいえ」が回答の大半を占めた。

質問「女性消防団に対するイメージは？」

＜ポジティブなイメージ＞

・女性が活躍できる ・地域貢献ができる

＜ネガティブなイメージ＞

・大変そう、火事の現場に行きたくない

・自分の生活と両立できないと思う

定量的にも、女性消防団員の存在・活動内容に関する認知度が低いと分かった。大多数の県内女性消防団員は、広報や応急手当の普及啓発等が主要な活動であり、直接的な消火活動にはほとんど関わらない。この事実が十分に知られておらず誤解につながっていると分析できる。

6：提案・実践

2025年12月末時点で
Part1～Part3までが公開中！

私達の実践

女性団員に密着して情報発信！

① 県のHPに女性消防団のインタビュー記事を掲載

参加した消防・防災に関するイベントを踏まえた私たちの意見・感想や、女性団員へのインタビュー内容などを発信(QRコード参照)。



栃木県HPに掲載された「インタビュー記録」より閲覧可能

② 県と協力して「女性団員活躍事例集」を制作(R8・3完成予定)

ターゲット層である私達のような若者の視点を取り入れ、女性団員の認知度を上げるとともに、多くの人の誤解や先入観をなくす。多くの人に呼んでもらうために、雑誌のようなおしゃれなデザイン・レイアウトを想定し、私たちが県内の団員さんへインタビュー、記事作成や写真撮影を実施中！

私達の提案

消防団の知名度・魅力向上を後押しするために！

① 作成した「女性団員活躍事例集」を用いた広報(写真5参照)

多くの人に手に取ってもらいやすいように、これまでのパンフレットのようなデザインから一新して雑誌のようなデザインに！消防団員(特に女性団員)の活動内容や意義について「知らなかった」という層を引き込み、入団のきっかけにする。



写真5 12/23
@真岡市複合交流拠点施設monaca
「事例集」作成に向けて、真岡市の女性消防団員さんへのインタビューの様子

② 学生・女性対象の消防団が分かる体験型イベントの企画・運営

広報の媒体をパンフレットやSNSなど特定のものに限定せず、消防・防災に関する出前授業やCM等幅広いコンテンツを活用していく。例えば、女性消防団員とともに考える防災ワークショップの開催をすれば、消防団の魅力と防災知識を両方伝えることができる。

③ 小中学校等で消防団に関するパンフレットを配布

子どもを広報の対象として巻き込むことで、その保護者(家族)に消防団について知ってもらうきっかけに！